

「授業構想力評価スタンダード（体育科）」

観点 \ 段階	段 階 1	段 階 2	段 階 3
A. 授業構想力 *できている項目の□には「レ」を記入すること			
1. 学習者の把握			
1) 学習者の実態把握	①子どもの顔色・言動より体調不良者を把握できる。□ ①'子どもの運動能力を予め把握している。□	①子どもの顔色・言動より体調不良者を把握できる。□ ①'子どもの運動能力を予め把握している。□ ②個々の子どもの指導上配慮すべきことを具体的に把握している。□	①子どもの顔色・言動より体調不良者を把握できる。□ ①'子どもの運動能力を予め把握している。□ ②個々の子どもの指導上配慮すべきことを具体的に把握している。□ ③クラス全体や個々の子どもに適した学習方法を考慮した授業構成にしている。□
2) 学習への構え・ルールづくり	①授業のはじめとおわりの挨拶が気持ちよくできる。□	①授業のはじめとおわりの挨拶が気持ちよくできる。□ ②クラスで授業中に守るべきルールが明示されている。□	①授業のはじめとおわりの挨拶が気持ちよくできる。□ ②クラスで授業中に守るべきルールが明示されている。□ ③ルールによってクラスの活気と秩序のバランスが保たれた雰囲気がつくられている。□
2. 目標の分類と設定	①目標を意欲・技能・理解の観点から捉えている。□	①目標を意欲・技能・理解の観点から捉えている。□ ②子どもの自己評価が具体的に可能な目標設定にしている。□	①目標を意欲・技能・理解の観点から捉えている。□ ②子どもの自己評価が具体的に可能な目標設定にしている。□ ③教師の授業評価と子どもの自己評価を活用して段階的に目標を設定している。□
3. 授業構成			
1) 教育内容の構成	①単元のまとまり内容構成ができている。□	①単元のまとまり内容構成ができている。□ ②他の課題にも応用できる法則を理論のレベルで捉え構成している。□	①単元のまとまり内容構成ができている。□ ②他の課題にも応用できる法則を理論のレベルで捉え構成している。□ ③生活レベルにおいて合理的な身体の動かし方に関連づけて構成している。□
2) 教材(題材)の選択・構成	①子どもの健康・安全に配慮できている。□	①子どもの健康・安全に配慮できている。□ ②子どもにとって運動量が適切な課題を選択している。□	①子どもの健康・安全に配慮できている。□ ②子どもにとって運動量が適切な課題を選択している。□ ③子どもが自ら努力・工夫する課題構成としている。□

観点 \ 段階	段 階 1	段 階 2	段 階 3
3) 授業過程の組織	①導入・展開・終結の流れがある授業過程としている。□	①導入・展開・終結の流れがある授業過程としている。□ ②子どもの問題意識を深める授業過程としている。□	①導入・展開・終結の流れがある授業過程としている。□ ②子どもの問題意識を深める授業過程としている。□ ③生活レベルへ発展できる授業過程となっている。□
4) 学習法・学習形態の選択・組織	①子どもの実態を把握してグループ学習ができる。□	①子どもの実態を把握してグループ学習ができる。□ ②子どもの学習意欲を喚起する学習法を選択・構成できる。□	①子どもの実態を把握してグループ学習ができる。□ ②子どもの学習意欲を喚起する学習法を選択・構成できる。□ ③子どもが自主的に課題解決できる学習形態を選択・構成できる。□
4. 単元計画 (授業計画)			
1) 単元(授業)計画の作成	①適切に時間数を割り振っている。□	①適切に時間数を割り振っている。□ ②単元のねらい、指導過程、時間配分の関係性を明示している。□	①適切に時間数を割り振っている。□ ②単元のねらい、指導過程、時間配分の関係性を明示している。□ ③子どもの必要性に応じて複線化した単元計画を構想している。□
2) 学習指導案の作成	①学習指導案を一般的な形式で適切に記述することができる。□	①学習指導案を一般的な形式で適切に記述することができる。□ ②目標との関わりについて、授業過程を示し記述できる。□	①学習指導案を一般的な形式で適切に記述することができる。□ ②目標との関わりについて授業過程を示し記述できる。□ ③子どもの学習活動に応じて、学習指導案の形式を選択し記述できる。□
3) 学習評価計画の作成	①意欲・技能・理解の観点ごとに評価活動を計画している。□	①意欲・技能・理解の観点ごとに評価活動を計画している。□ ②授業目標・授業構成・授業展開の実際で評価方法を明示している。□	①意欲・技能・理解の観点ごとに評価活動を計画している。□ ②授業目標・授業構成・授業展開の実際で評価方法を明示している。□ ③子どもの自己評価などの評価活動を適切に選択し計画している。□